

4. 林野火災を防ごう！（消防の動きより）

林野火災を防ごう！～全国山火事予防運動～

総務省消防庁 防災課

平成15年中の林野火災発生状況をみると出火件数は1,810件（前年比1,533件減）、死者は19人（同2人増）、焼損面積は726ha（同1,901ha減）となっています。

日本における林野火災は、例年春先に多く発生しており、平成15年も例外ではなく、3月から5月までの間に1,003件と年間の55.4%の火災が集中し、特に3月には430件が発生しています。この時期は、山林に燃えやすい落ち葉や枯れ草が多く残っているほか、強風が吹きやすく、また降水量の少ない乾燥した火災の発生しやすい気象状況が続きます。

林野火災の出火原因としては、「たき火」、「たばこ」、「火入れ」を出火原因とするものが全体の51.3%を占めるなど、火気の取扱いの不注意や不始末による失火が多くなっています。

消防庁では、林野庁と共同して春季全国火災予防運動期間中の3月1日から7日までを「全国山火事予防運動」の実施期間とし、全国の消防関係機関において林野火災の予防対策と警戒を強化するほか、ハイカー等の入山者、地域住民、小・中学校生徒を対象とした啓発活動、駅や市町村の庁舎、登山口等へのポスターや警報旗の掲示、報道機関を通じた山火事予防思想の普及啓発、消防訓練及び研究会の開催、婦人防火クラブの広報活動などを通じて、山火事予防を呼びかけています。

失火による林野火災を未然に防ぐため、レクリエーションやドライブで入山される方は、燃えやすいものの周囲でのたき火や、たばこの投げ捨てなどを絶対にしないことはもちろん、各自のゴミの持ち帰りなどマナーの向上が不可欠です。また、林野の周辺に居住の方や、業務により入山する機会の多い方は、火気を使用される場合は、気象状況、周辺の可燃物の状況に注意するとともに、近くに消火用の水を必ず用意し、完全に火が消えたことを確認してからその場を離れるなど十分な管理をしてください。特に強風注意報や乾燥注意報などが発令されている時は、思いがけない飛び火や急激な火勢の拡大が発生し大火災になりかねませんので、火気の使用は避けてください。

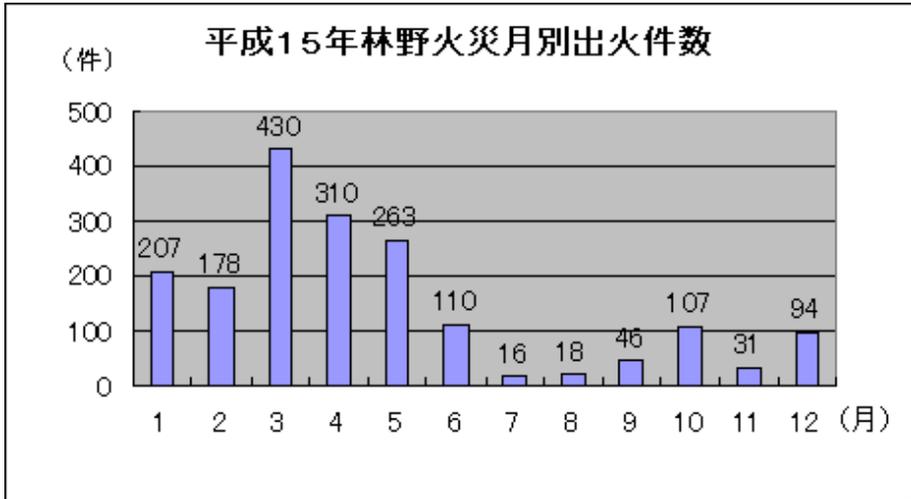
森林は、地球温暖化の主要な原因である二酸化炭素を吸収し、生命に必要な酸素を供給する貴重な資源であり、一度焼失してしまうと、その回復には長い年月と多くの労力を要することになります。林野火災の多くは、一人ひとりの注意でその発生を抑制することができるものです。林野における火気の取扱いには、十分気をつけましょう。



島本 隆弘
(岡山県大島中学校3年)



四宮 のどか
(徳島商業高校3年)



[▲ このページの上に戻る](#)

目次

- [1. 全国婦人防火連合会（総会）](#)
- [2. 平成16年度住宅防火推進懇談会](#)
- [3. 平成16年度婦人防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会報告（九州・沖縄地区、北海道・東北地区）](#)
- 4. 林野火災を防ごう！（消防の動きより）
- [5. 新任会長紹介](#)
- [6. 地方からの便り](#)
- [7. あなたも危険物取扱者・消防設備士](#)
- [8. 日本防火協会からのお知らせ](#)